

## あとがき

本校では、平成30年度から文部科学省の特別支援教育に関する実践研究充実事業として、「地域・人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを育む授業づくり」をテーマに学校研究に取り組んできました。

今年度は二年次となり、昨年度の実践研究の成果をもとに、「主体的・対話的で深い学び」に対する学習評価に重点を置き、実践研究を展開してきました。その際に、キャリア発達の視点である児童生徒の「育ちと学びのプロセス」を大切にしたい授業づくりを行い、「より現実社会に即した」学習環境を設定し授業を行いました。いずれの学部も、児童生徒の育ちと学びのプロセスを丁寧に見取り、内面の変容のエビデンスを教員間で協議しながら学習評価を行うことに多くの時間を費やしました。また、授業実践においても「子どもが知識を活用して思考する場面」「子どもが自らの学びを自覚し、振り返る場面」について、児童生徒の学びの流れの中でどう設定していくのかを追求してきました。児童生徒の学びに向かう力を引き出すために、現実社会に関わる主題に関する学習を体験活動として積極的に取り入れていくことや、そこには地域・人との関わりが必要となってくることなど、今年度の実践研究を通して、改めて学んだ1年でもありました。

まだまだ道半ばではありますが、今後も新学習指導要領に示されている「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」といった重要なキーワードをもとに、児童生徒が「生き抜く力」をどのように身に付けていくか、そのために何が必要かを考えていきたいと思えます。

教育研究会にご参加いただいた皆様や本研究紀要をご高覧いただく皆様から忌憚のないご意見やご指導を賜りながら、今後も研究を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、研究に際しまして、関西学院大学教育学部教授 菅原伸康先生、金城大学教授 佐伯英明先生、金沢市社会福祉協議会 水橋佑介様、味噌蔵地区民生委員 宮村忠利様、金沢大学教授 綿引伴子様にご協力・ご助言を賜りました。また、地域、関係機関の皆様には児童生徒と共に活動していただきました。謹んでお礼申し上げます。

教頭 柳生美由季